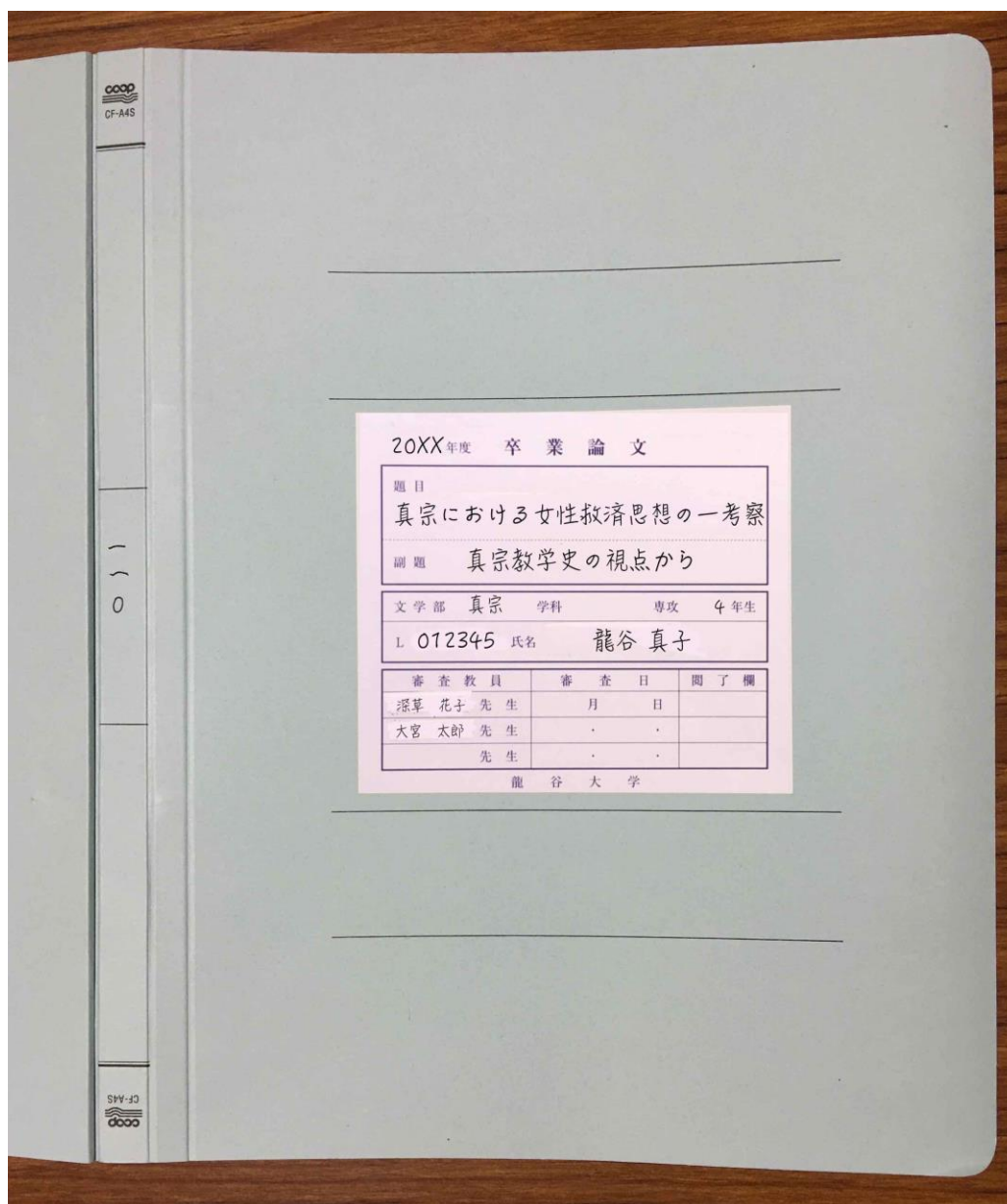


龍谷大学文学部真宗学科  
卒業論文作成マニュアル  
2020年度版  
(別冊)

卒業論文の基本的な書式等の例（横書仕様）

- 「装丁例」
- 「中表紙例」
- 「目次例」
- 「本文構成例（序論、本論、結論）」
- 「本文構成例（引用文）」
- 「本文構成例（註）」
- 「参考文献例」
- 「正誤表例」

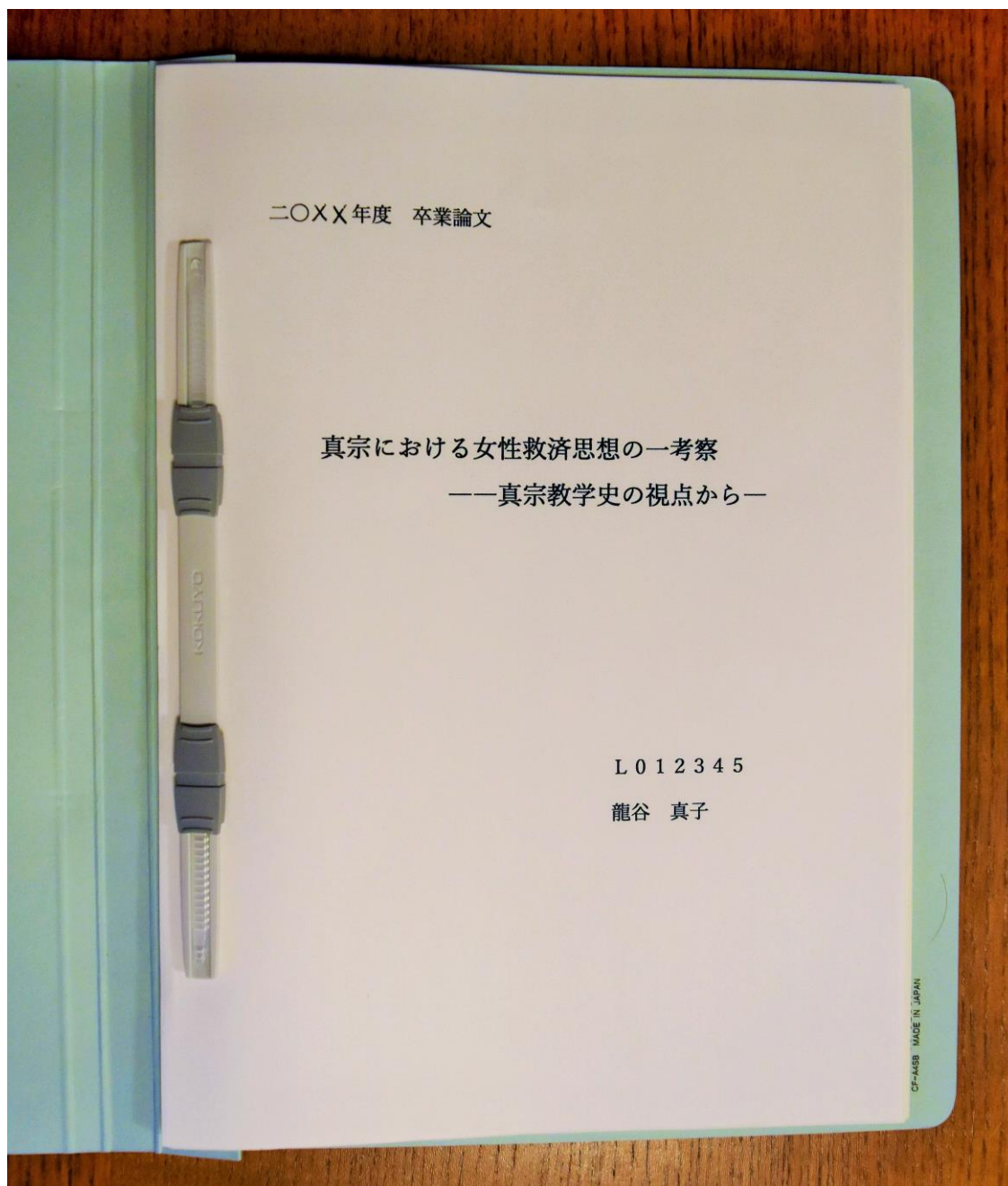
## 「装丁例」 (横書)



指定されたペーパーファイルにパンチ（2穴）した用紙を綴じ込む。使用するファイルのサイズは使用する用紙に合わせたもの（原則としてA4用紙サイズ）を使用すること。ファイルの色は学科専攻別に指定色が異なるので注意すること。ファイルには教務課で配付される「題目記入用紙」を貼付し、ファイルの背表紙には「整理番号」を「漢数字」で記入する。

なお背表紙に記入する整理番号は、卒論題目提出後に指定される。この整理番号は学籍番号とは異なるので注意すること。またファイルに用紙を綴じ込む際には、縦書き、横書きに合わせて綴じ方を間違えないよう注意する。ファイルの色と整理番号については教務課より掲示板等で指示があるので、それに従うこと。

「装丁例」 (横書)



本文の前に、卒業年度（西暦）、論文の題目、学籍番号、氏名を記した「中表紙」をおく。ファイルに用紙を綴じ込む際には、綴じ方を間違えないよう注意すること。

二〇二〇年度 卒業論文

漢数字を使用  
すること

真宗における女性救済思想の一考察  
—真宗教学史の視点から—

指定枚数を超過する場合な  
どは中表紙に指導教員の印  
鑑が必要となることに注意  
すること。

L 0 1 2 3 4 5

龍谷 真子

「目次例」 (横書)

目次

序論	1
本論	3
第一章 浄土教における女人救済思想	3
第一節 浄土教の女性観	3
第二節 浄土教における「女人往生」と「変成男子」	5
第二章 親鸞における「女人成仏」の思想	9
第一節 ○○○○○○○○○	9
第二節 ○○○○○○○○○	12
第三章 存覚『女人往生聞書』にみる「女人正機」の論理	17
第一節 ○○○○○○○○○	17
第二節 ○○○○○○○○○	22
結論	24

註

参考文献

見出し項目は論・章・節などの順に一字ずつ下げる。  
註・参考文献にはページ数は不要。

序論

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○(中略)○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（序論、本論、結論の間は3行空ける）

本論

第一章 浄土教における女人救済思想

第一節 浄土教の女性観

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○(中略)○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（各節、項の間は1行あける）

第二節 浄土教における「女人往生」と「変成男子」

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○(中略)○○○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

（各章の間は2行空ける）

第二章 親鸞における「女人成仏」の思想

第一節 ○○○○○○○○

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○

「本文構成例（序論、本論、結論）」（横書）

○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○（中略）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○  
○○

（序論、本論、結論の間は3行空ける）

結論

○○  
○○○○○○○○（中略）○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○

- ・ 各ページの上下左右に 25 mm 以上の空白をとり、文字サイズ・文字間・行間のバランスが取れるように配慮して表記すること。
- ・ 横書きの場合は 1 行につき全角 32 字、1 ページにつき 25 行（1 ページにつき 800 字、左綴じ）。
- ・ 本文の文字フォント・サイズ：明朝体で 10.5 ポイントを基本とする。
- ・ ページ数は各ページの中央下部に、算用数字で記入すること。





「本文構成例（引用文）」（横書）

2. 引用文が長い場合

- ◇ 引用文が長い場合（本文中で2行を超える場合）、引用文の前後を改行し、引用文の全体を行頭から2字下げた形で示す。この場合には、引用文の前後にカギ括弧は付さない。
- ◇ 2字下げした引用文の前後の行は空けない。

○○  
○○  
○○親鸞はこのこと  
を『唯信鈔文意』に次のように示している。

○○  
○○  
○○（『註釈版』  
○○頁）

○○  
○○

この親鸞の『唯信鈔文意』の文意について、△△△△氏は日本思想史  
の研究者の視点から、次のような新しい解釈を示している。

○○  
○○  
○○  
○○ 1

○○  
○○

注意：引用文の長短に拘らず、すべての引用文の末尾には、必ずその出  
典箇所を註記すること。もし出典箇所が明示されていない場合は、その  
部分は盗用と判断される。

「本文構成例（註）」（横書）

註

- 1 矢田了章「二種深信の教理史的考察」≡『真宗学』83、4頁
- 2 信楽峻麿『浄土教における信の研究』505頁
- 3 浄土真宗本願寺派総合研究所『浄土真宗聖典』オンライン検索  
[http://j-soken.jp/category/ask/ask\\_6](http://j-soken.jp/category/ask/ask_6) 2020年5月21日アクセス
- 4 矢田了章「二種深信の教理史的考察」28 - 29頁
- 5 信楽峻麿『浄土教における信の研究』352頁
- 6 梯實圓『法然教学の研究』291 - 292頁
- 7 矢田了章「二種深信の教理史的考察 - 法然・隆寛・聖覚における - 」≡『真宗学』99・100、165頁
- 8 勸学寮編『安心論題綱要』29頁
- 9 内藤知康『安心論題を学ぶ』117頁
- 10 普賢大円『真宗概論』154頁
- 11 土井忠雄『真宗研究序説』388頁
- 12 信楽峻麿『親鸞における信の研究』上、286頁
- 13 信楽峻麿『親鸞における信の研究』上巻、292 - 293頁
- 14 桐溪順忍『救済の論理』423 - 424頁
- 15 曾我量深『歎異抄聴記』31頁

## 「本文構成例（参考文献）」（横書）

### 参考文献

書籍（著者名の五十音順の場合）

- 梯實圓『法然教学の研究』永田文昌堂、一九八六年  
勸学寮編『安心論題綱要』本願寺出版社、一九八二年  
勸学寮編『浄土三部経と七祖の教え』本願寺出版社、二〇〇八年  
桐溪順忍『救济の論理』教育新潮社、一九八七年  
信楽峻麿『親鸞における信の研究』上、永田文昌堂、一九九〇年  
信楽峻麿『浄土教における信の研究』永田文昌堂、一九七五年  
曾我量深『歎異抄聴記』真宗大谷派宗務所出版部、一九九九年  
土井忠男『真宗研究序説』百華苑、一九七八年  
普賢大円『真宗概論』百華苑、一九九四年

### 論文

- 石田充之「『観經彌陀經集註』に示される親鸞聖人の思想について」『龍谷大学論集』  
394、1960年  
鈴木大拙「妙好人、浅原才市を読み解く」『松ヶ丘文庫研究年報』27、2013年  
増谷文雄「キリスト教における信仰と浄土門の仏教における信仰について」『仏教とキリス  
ト教の比較研究』第3篇12章、筑摩書房、1968年  
村上速水「現生正定聚の理解」『龍谷教学』23、1988年  
矢田了章「二種深信の教理史的考察」『真宗学』83、1999年  
矢田了章「二種深信の教理史的考察-法然・隆寛・聖覚における-」『真宗学』99・100、  
2001年

「正誤表例」 (横書)

正誤表

頁	行	誤	正
5	2	『一年多年文意』	『一念多念文意』
6	8	という。	といい、
13	14	法性身	法性法身
20	9	『真聖全』二、六四七頁	『真聖全』二、六四九頁
註 8		関学寮編『安心論題紅葉』	勧学寮編『安心論題綱要』
参考文献		矢田了章「二種人心の教理史的考察」『信州学』83	矢田了章「二種深信の教理史的考察」『真宗学』83